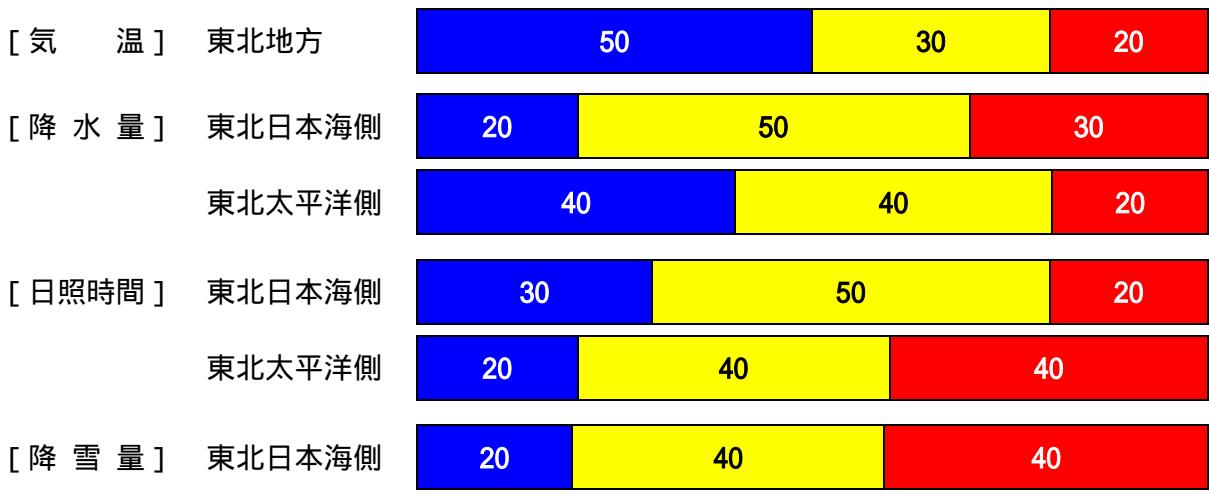


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:11月17日~12月16日)

平成13年11月16日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

[気温]: 東北地方は「低い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

1週目は高気圧に覆われ晴れる日が多いでしょう。2週目以降は低気圧が周期的に通過し、通過後は冬型の気圧配置が続く見込みです。このため、東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では天気は周期的に変化し、平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数: 東北日本海側約6日、東北太平洋側約16日

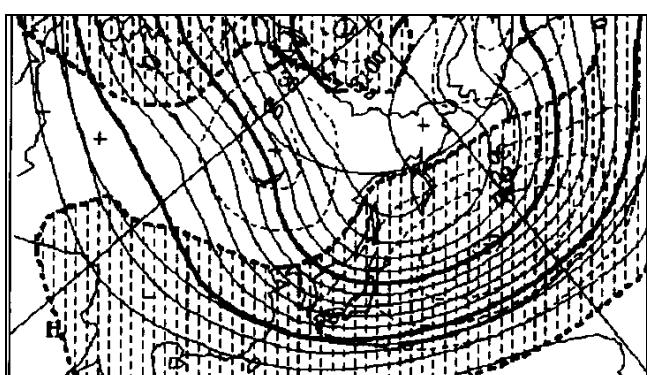
各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 17日は気圧の谷の影響で、東北日本海側で天気が崩れますが、(11月17日~11月23日) その後は高気圧に覆われ概ね晴れる見込みです。東北太平洋側は期間を通じて晴れるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

- 平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日
- 2週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年同様東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
平均気温は低いでしょう。
- 平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日
- 3~4週目…………… 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。平年同様東北日本海側は曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。
平均気温は低いでしょう。
- 平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約8日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



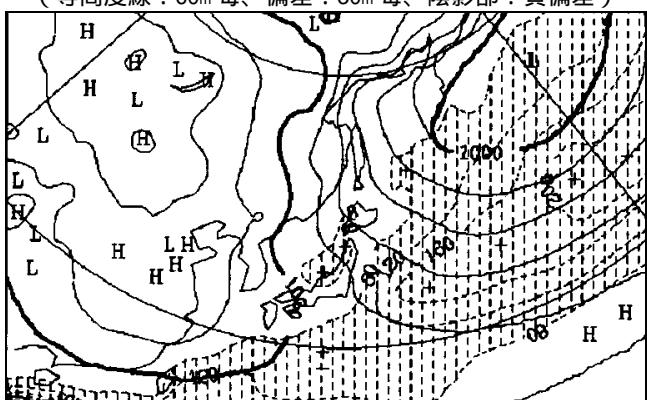
月平均の500hPa高度・偏差

(等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

500hPa高度・偏差

月平均で見ると、バイカル湖付近からアラスカにかけての高緯度で正偏差が強く、日本付近の中緯度帯は日本の東海上を中心にもつ負偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越しているが、東谷傾向で寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、1週目にバイカル湖付近の正偏差が強まり、東北地方まで覆う。2週目以降は、日本の東で負偏差強まり、寒気の影響を受けやすくなる。



月平均の地上気圧と降水量

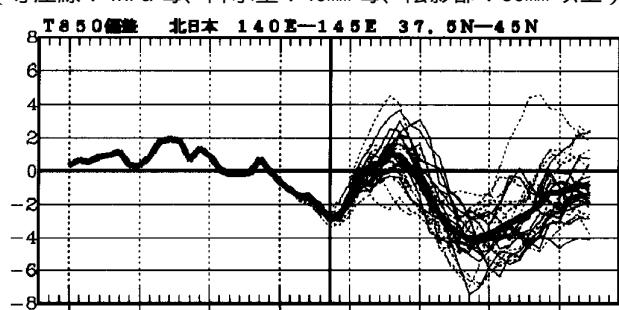
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸にある高気圧と、アリューシャン列島付近の低気圧とともに強く、日本付近は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は日本の南海上から北東に延びるが、日本海にも弱い降水域がかかる。

週別（図略）では、1週目は大陸にある高気圧の張り出しが強く、日本付近は高気圧に覆われる。2週目以降は月平均とほぼ同じで冬型の気圧配置。



北日本850hPaの気温平年差の実況と予想

(縦軸: 気温平年差(度) 横軸: 日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

北日本850hPa気温平年差の時系列

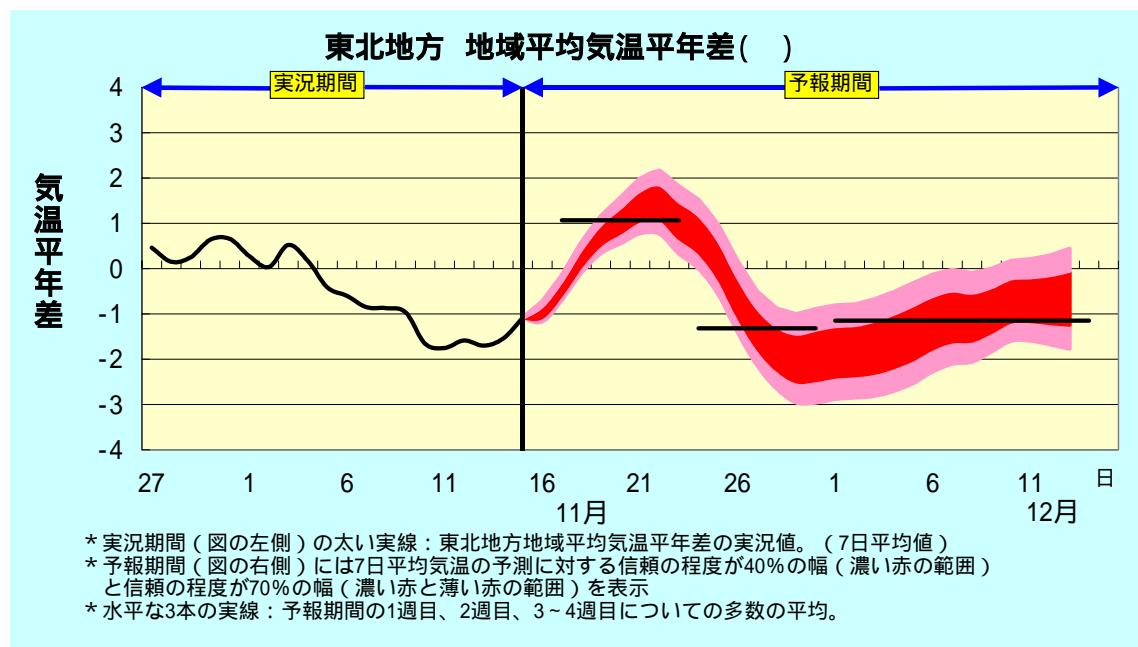
アンサンブルメンバーの平均は、1週目に平年を上回るが、その後は下降し、2週目を低極として平年を大きく下回る。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「高い」、2週目以降「低い」を予測している。

予報は各週とも予測通りとする。

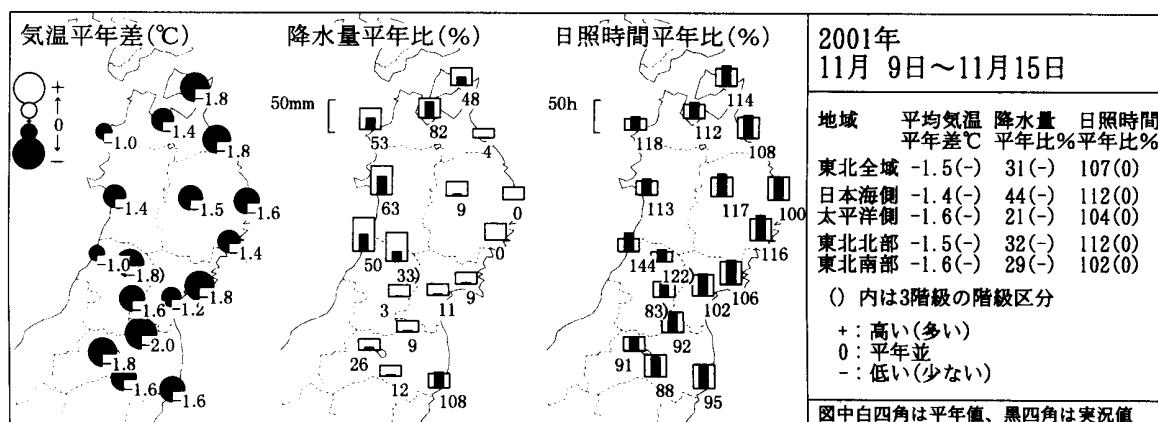
なお、予報期間後半の信頼度は小さい。



4. 最近1週間（11月9日～11月15日）の天候の経過

前半は、9～10日にかけてと12日に日本海側を低気圧が通過した影響で、東北南部を中心に曇りや雨となった。後半は、冬型の気圧配置となって寒気が入り、東北日本海側では雨や雪のところが多かったが、東北太平洋側は概ね晴れた。また、13日には青森、盛岡、深浦、酒田で、14日には八戸、秋田でそれぞれ初雪を観測した。

平均気温は、東北地方で平年差-1.5と低かった。降水量は、東北地方で平年比31%と少なかった。日照時間は、東北地方で平年比107%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）